

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471300184	事業の開始年月日	平成13年3月1日
		指定年月日	平成21年3月1日
法人名	社会福祉法人大磯恒道会		
事業所名	グループホームかわわの家		
所在地	(259-0125) 神奈川県中郡二宮町川匂177-1		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・地域資源〔公民館、文化ホール、学校、保育園〕の活用を進めている。
- ・広い庭の活用を工夫している。(園芸、野菜作り、餅つき、食事会、防災訓練)
- ・散歩のコースに昔ながらの風景がある。近所のお庭には季節を感じられるような植栽があり気軽に見せていただき、何気ない会話を日常的にかわしている。
- ・近所との交流が日常的にあり、緊急災害時の協力体制もある。
- ・2ユニットの施設の形状が異なることで、近所付き合い的な工夫が出来る。
- ・毎月習字教室、ミュージックセラピーを講師を呼んで行なっている。
- ・2階や段差のある生活空間を生かし筋力維持や入居者の意識的行動を促している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル 8階		
訪問調査日	平成22年11月25日	評価機関 評価決定日	平成23年3月16日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 【事業所の概要】**
この事業所は東海道線二宮駅からバスで5分、バス停から徒歩8分の所にある。周りは里山のような雰囲気のある静かな住宅地である。民家を改築、増築した一般住宅と変わらない佇まいになっている。屋内は階段や段差があり、その環境が利用者の筋力維持などにつながり、歩行が改善された方がいる。庭にはベンチが設置されており、ゆっくり出来るようになっている。
- 【事業所の理念など】**
「声かけ、気配り、思いやり」をモットーに、事業所の理念「ゆっくり、いっしょに、楽しんで」を拠りどころにしている。毎日のように散歩や買い物に出かけており、散歩は利用者の好きなコースを楽しんでいる。習字教室の作品を二宮町の文化祭に出品した。
- 【地域との関係】**
入川匂町内会に加入している。隣近所との交流や日常的な付き合いがあり、外出時には地域の方から声かけや見守りをしてもらっている。事業所の餅つき、そうめん流しには、近隣の方に参加してもらっている。地域の祭りで事業所の庭に神輿が来たり、近隣の方から庭の花を見せてもらったり、栗拾いに誘われて出かけたりしている。保育園と交流があり、卒園の時には手作りのマスコットをプレゼントした。中学校の運動会、文化祭にもでかけている。また、中学校の職業体験を受け入れるなど積極的に地域とかかわりを持っている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームかわわの家
ユニット名	ひまわり棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の活動や打ち合わせ、カンファレンス等で理念や目標を念頭において行うよう実践している。	事業所の理念は「ゆっくり、いっしょに、楽しんで」である。管理者は折に触れ、ケアの中で職員に『利用者に関わる時には「ゆっくり」対応するように』声をかけている。理念は職員の交代等があり、すべての職員にまでは浸透していない。	理念がすべての職員に浸透するよう取り組むことが期待される。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に所属しており回覧板を回す際に利用者と共にでかけている。 ・散歩などの折に挨拶をしたり、会話を楽しんでいる。 ・地域の祭りや行事に参加している。 ・避難訓練の立会いや協力をしてもらっている。	入川勾町内会に加入している。事業所の庭が、祭りの神輿の休憩所になっている。餅つきを行った際には近隣の方が事業所を訪れた。また、利用者はざる菊鑑賞、栗拾い等の誘いを受けて近隣に出かけている。保育園、中学校とも交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・日常的な交流の際に話題として取り上げ、理解をしていただけるように話している。防災訓練の協力の際に現状の利用者の状況を見てもらった。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・意見の交換を行い、施設への理解をしていただき、防災訓練の際の協力を得られるようになった。	年4回、運営推進会議を開催している。参加者は入川勾町内会会長、地区代表、家族代表、役場職員などである。会議では、事業所の状況報告や参加者との意見交換を行った。参加者より避難訓練時に協力したいという申し出があった。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営懇談会に必ず出席し協力していただいている。 ・県の保健福祉事務所のケースワーカーとも利用者のことを定期的に報告し、訪問もある。	町高齢障がい課担当職員と連携しており、事業所の入居待ちなど状況確認をしている。月1回、各ユニット2名の介護相談員を受け入れ、利用者からの話を聞いてもらっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・居室の施錠はないが玄関の施錠や吐き出しの窓に関しては安全上行なっている。このことに関してはご家族の了解を得ている。</p>	<p>研修で「身体拘束ゼロ」の概要を職員に説明した。玄関アプローチからすぐ道路に面しており、危険防止のため家族の了解を得て、玄関に施錠している。また以前、居室のはきだし窓から外に出た事例があり、その方の状態により現在、夜間のみ、5箇所居室のはきだし窓に施錠している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・部内研修などやカンファレンスなどで不適切なケアに関して留意している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・個別に権利擁護サービスの必要な利用者に関して制度の利用を進めた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約の際に十分に理解していただけるよう説明している。改定の際には事前に説明し、文書に表し理解を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・運営懇談会で家族の方に出席していただき、また家族会を年に二回行い意見を頂いている。訪問時や、電話連絡の折に気軽に声をかけあっている。又介護相談員やボランティアの訪問時利用者とお話して気づいたことを報告して頂いている。</p>	<p>利用者は月1回介護相談員に話しを聞いてもらう機会がある。年2回の家族会で意見交換を行ったり、運営推進会議時に意見などを出す機会がある。家族の訪問時や電話で要望などを聞いている。利用者からの要望で風呂場の手すりを適切な場所に移動した。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・カンファレンスの折や法人の職員全体が出す目標シートに意見や個人の目標などを書いてもらい代表が目を通して見ている。また全体職員会議においても意見を出せるようになっている。	カンファレンス時に職員から意見などを聞いている。法人が行っている目標シートで、「面談がしたい」など提案や意見を出せるようになっている。職員の意見を反映して休憩時間が取りやすいように、時間を区切って取る方法に変えた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回個人の目標設定をしたものを提出してもらい運営に活用している。面談を希望する職員の希望も取り入れている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年2回の目標シートを全職員に書いてもらい個々人の思いや意見を法人は把握している。研修は部内、部外とあり、希望を取って実践できるよう努めている。新人に対しては期間を決めてレポートチェックを行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・法人内の4グループホームでの交流研修を行ない報告をもらってサービスの向上に努めた。小田原のGH連絡会主催の研修にも参加した。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを開始する前には在宅時のケアマネから情報を提供していただいている。また自宅への訪問を必ず行いご本人の様子をうかがいサービスへつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族の困っていることや要望などを十分に聞きとりサービスを開始している。またご家族からのアンケートをいただき出来るご協力もお願いしながら関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談内容を詳しく記録し一番必要としているサービスが何かを見極めるよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者が持つ能力をいかしコミュニケーションを図りながら一緒に行い、役割感を持ってもらえるよう支援している。(掃除、料理、季節の行事など)		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族の行事や冠婚葬祭などには積極的に関わってもらったりしている。居室の整理や大掃除などにもご協力してもらえるよう声をかけている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お友達との電話や訪問などの機会があるときは積極的に支援している。また近隣の行事の際には出かけて出会う機会を設けている。(町内のカラオケ大会、餅つき、なじみの商店)	友人、知人が訪問して昼食を一緒にする利用者があり、家族の了解を得て写真撮影することもある。以前、利用者が出場していたカラオケ大会に継続して参加できるように支援した。町内の餅つきに参加したり、米などを馴染みの商店で購入したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・常に利用者の行動を把握できるように職員の配置を考え利用者同士の関係に目を配り、支援できるようにしている。外出の際の利用者の組み合わせも考慮して行なっている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・近くの病院への入院や退所となった場合病院や法人内の特養などに行かれた時には様子を窺いに行くことがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・日々のコミュニケーションの中で考えや希望を把握できるよう努めて支援につなげている。ケアカンファレンスの際にきめ細かく検討し、サービスのあり方を見直している。	日々の会話の中で思いや意向を把握している。ケアプラン作成時に改めて本人から聞くこともある。把握が困難な方には、どういう場面で笑顔が出るか、どんなことに反応したかなどを観察し、記録して職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービス開始前にご家族からアンケートを書いてもらったり訪問調査の折に聞き取り調査をして把握に努めている。また以前のケアマネからも情報を了解のうえ頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝の申し送り時に注意事項を確認しあい日誌にもバイタルの変化や摂取量の確認を常に行い把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・ケアカンファレンスの折にチームで課題を分析したものとご家族からの情報や意見、本人の意向を踏まえて（意向が伝えられない利用者には予測して）プランを立てている。</p>	<p>利用者、家族、主治医の意見を反映した介護計画を作成している。その人が生き生きとした場面の様子などを、利用者の担当職員が「課題抽出分析シート」に記入し、それを基に職員全員で検討している。見直しは通常6ヶ月に1回である。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・日誌のほかに気づきやアイデアがあったら記入するものを作り随時メモ代わりに記入して会議に活用している。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・送迎付きのマッサージ治療院があることで外部のサービスを利用している利用者もある。</p> <p>・ケースワーカーと協力し、面会が困難なご家族との対面も実現した。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・近所付き合いを大切にし、お庭を散策させてもらったり、栗拾いなどをさせてもらったり、ボランティアで来ていただいたりなどし、豊かな生活ができるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>・以前から通っている病院や医院に継続してかかっている。又日常の様子などはご家族へ伝え主治医に正しく伝わるようにしている。</p>	<p>利用者のうち5名にかかりつけ医があり、受診は家族の対応になっているが、対応できない場合は職員が同行して受診している。内科医が月2回、精神科医が4週に1回の往診があり家族の希望で受診している。歯科医は随時、訪問診療となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行う</p>	<p>・入院時や途中の経過などをご家族や病院関係者と連絡を取り合い場合によっては話し合いを設けている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p>	<p>・変化の著しい利用者に関してはご家族と多くの話し合いを設けている。面会時なども変化や様子を伝える様にしている。近くの総合病院とも連絡会が出来相互理解をする予定である。</p>	<p>入居時、家族に重度化や終末期についての方針を話している。重篤な場合は、早め入院してもらい、入浴困難となった場合は特養等の入所を勧めている。毎月、家族に身体状況を連絡している。ケースカンファレンスでそのつど、どのように対応するか話し合い方針を共有している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・個々の利用者の急変時の対応に関しては個別にカンファレンスで情報交換をしている。まだ日の浅い職員もいることから今後の課題である。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・避難訓練は定期的に行い、夜間想定避難訓練も実施した。地域の防災担当の役員と打ち合わせを行い実際の訓練に立ち会っていただいた。又近隣の方への協力もとりつけている。消防署からも立会いに参加していただき好評をいただいている。</p>	<p>年2回、避難訓練を行っており、今年度は夜間想定訓練を実施している。緊急用として、3日分の水、食料、利用者分の防災頭巾、簡易トイレ、カセットコンロなどを備えている。災害時には地域の協力が得られるような関係を築いている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・常に人格の尊重を念頭に入れた対応を心掛けるようにしているが認知症状の進んだ利用者に対しての感情的な言葉かけが出る職員もいるのでその都度注意をしている。	管理者は接遇、声のトーンなど不適切な場合はそのつど職員に注意している。利用者の誇りを傷つけないようにしている。個人情報などの書類は鍵のかかるキャビネットに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・日々の活動の中で選ぶ場面を多く作っている（献立や外出、美容など）。また何気ない会話の中でさりげなく希望をとっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ゆっくりとしたペースを原則としているが時には行事の関係で職員の意向が優先することがある。（入浴や、散歩など）		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・ヘアカラーをしたいという希望の方や美容院に行きたいとの希望は必ず実行している。またおしゃれが大好きな方にはお出かけや誕生日の時にはお化粧品やアクセサリなどで気分転換を図っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・韓国に在住していた方にはキムチ作りを教えて頂いたり、踏を探ってきて煮ていただいたり年末にはおせち料理などで手伝っていただき楽しんでもらっている。日々では下ごしらえや茶碗拭などをしていただいている。	利用者に好みを聞いて献立を立て買い物と一緒にしている。訪問時、利用者はシメジをほぐしたり、海苔をちぎるなど下ごしらえをしていた。職員は利用者と一緒に同じもの食べていた。外食やおやつを食べに出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・日誌に食事摂取量と水分摂取量を記入している。変化のある利用者には食事以外の時にも栄養や水分補給をできるよう支援している。栄養士の指導を受けていないので凡その栄養バランスで提供しているので今後指導をしていただくようにしたい。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・毎食後口腔ケアをできるように口腔セットの準備をしておき、声かけと援助をスタッフ間で決めたやり方で実行している。必要に応じ歯科医の受診をしている。認知症の進んだ方へは落ち着いた時間を見計らって対応している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・一人ひとりの排泄のパターンを把握し声かけや誘導に努めている。夜間では歩行に不安定な方や病的に必要な方へポータブルトイレの使用で排泄の失敗や排せつの抵抗感を軽減できるよう支援している。</p>	<p>排泄時間を記録しており、時間を見てトイレ誘導している。排泄パターンを把握し、紙おむつから布オムツ、またオムツが不要になり、自信につながった方がいる。現在は、全員トイレで排泄している。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>・毎日の体操や散歩で運動をしている。また食材や調理の仕方（圧力鍋で柔らかくする）で水分やせんいを多く摂れるように工夫している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・毎日入りたい方にはできるだけ希望に沿っている。またゆっくりと入れるよう声をかけ会話を楽しみながら行っている。拒否の強い人には無理強いせず入れるときに勧めている。</p>	<p>利用者の希望や身体状況に応じて14:00過ぎから16:30くらいに入浴している。入浴をしたがらない方には、その人に合わせた声かけをして入浴してもらっている。バラ湯など入浴剤を使用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・バイタル上休んだほうがよいときなどは行事などでも休んでもらっている。また入眠のタイミングも様々なので他の利用者さんなどに妨げられないよう職員が気を配っている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・服薬表を掲示して、いつでもみられるように工夫をしている。新しい薬が処方されたらその都度情報を周知してもらえるよう申し送りボードに記入し、間違いの無いようにしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・食事作りの場面では得意なことをしていただいたりしている。絵の得意な方、習字の好きな方、手芸などの支援にも少しずつ取り組んでいる。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・手紙を出したいと思っている人には一緒にポストに行ったり、選挙に行きたい利用者には希望に沿った支援を現場の方に協力してもらい行えた。全員の希望にはまだ応えられない部分もある。</p>	<p>毎日のように散歩や買い物に出かけている。家族と一緒に散歩に出かける方もいる。外出できる方は、車で箱根に出かけたり電車を利用して平塚の七夕に出かけたりしている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・徐々に個人で金銭管理はできなくなっているができるだけ力量に応じて買い物の際に金銭の出し入れを実行できるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話をしたいという希望があると時間の許す限り支援している。また手紙などのやり取りをできるように機会を設けている。ご家族には訪問できない時には電話や手紙、ファックスなどでコミュニケーションをしてもらえるよう伝えている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を味わってもらえるよう利用者とともに壁を飾ったり、花を生けたりしている。 ・センサーの音が、不安を呼ぶことがあるので検討課題である。	共用空間は明るく壁などに利用者の誕生日の様子の写真などがあり、温かみのある空間になっている。庭の「つわぶき」の花が飾ってあり、季節感が感じられた。トイレは皆の意見で「便所」と表示して分かりやすくした。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースが区切られているので好きなところで過ごせるよう自由にしていただいている。また隣のユニットとの行き来もすることで気分転換を行っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際に本人のこだわっているもの、好んで使うものなどを持ってきていただいている。	入居前から馴染んでいる、ベッド、テレビ、たんす等を持ち込みそれぞれに、居心地が良い居室になっている。仏壇を置いている利用者もいる。畳敷き部屋が多い。畳にカーペットを敷いたり、布団を使用したり工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレの表示ははっきりと示し自立を促している。掃除道具などは利用者にも扱いやすいように置いてある。階段は滑り止めをし、手すりも多く設置し歩行困難な方も自立して移動できるよう工夫している。		

事業所名	グループホームかわわの家
ユニット名	あじさい棟

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・日々の活動や打ち合わせ、カンファレンス等で理念や目標を念頭において行うよう実践している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に所属しており回覧板を回す際に利用者と共にでかけている。 ・散歩などの折に挨拶をしたり、会話を楽しんでいる ・地域の祭りや行事に参加している。 ・避難訓練の立会いや協力をしてもらっている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・日常的な交流の際に話題として取り上げ、理解をしていただけるように話している。防災訓練の協力の際に現状の利用者の状況を見てもらった。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・意見の交換を行い、施設への理解をしていただき、防災訓練の際の協力を得られるようになった。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・運営懇談会に必ず出席し協力していただいている。 ・県の保健福祉事務所のケースワーカーとも利用者のことを定期的に報告し、訪問もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>・居室の吐き出し窓が高い位置にあることから外に出る際危険のため職員の手薄な時間帯のみ施錠している利用者がいる。ご家族には説明し了解してもらっている。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>・部内研修などやカンファレンスなどで不適切なケアに関して留意している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>・個別に権利擁護サービスの必要な利用者に関して制度の利用を進めた。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・契約の際に十分に理解していただけるよう説明している。改定の際には事前に説明し、文書に表し理解を得ている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・運営懇談会で家族の方に出席していただき、また家族会を年に二回行い意見を頂いている。訪問時や、電話連絡の折に気軽に声をかけあっている。又介護相談員やボランティアの訪問時利用者とのお話しで気づいたことを報告して頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・カンファレンスの折や法人の職員全体出す目標シートに意見や個人の目標などを書いてもらい代表が目を通している。また全体職員会議においても意見を出せるようになってきている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・年に2回個人の目標設定をしたものを提出してもらい運営に活用している。面談を希望する職員の希望も取り入れている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年2回の目標シートを全職員に書いてもらい個々の思いや意見を法人は把握している。研修は部内、部外とあり、希望を取って実践できるよう努めている。新人に対しては期間を決めてレポートチェックを行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	・法人内の4グループホームでの交流研修を行ない報告をしてもらってサービスの向上に努めた。小田原のGH連絡会主催の研修にも参加した。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービスを開始する前には在宅時のケアマネから情報を提供していただいている。また自宅への訪問を必ず行いご本人の様子をうかがいサービスへつなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>・ご家族の困っていることや要望などを十分に聞きとりサービスを開始している。またご家族からの出来るご協力もお願いしながら関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>・相談内容を詳しく記録し一番必要としているサービスが何かを見極めるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>・コミュニケーションを図りながら何か活動をする際に利用者とともにこない、職員が助けてもらっているような環境を設定し、自信を持ってもらえるようにしている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>・通院や行事などご家族の協力できるところは協力してもらっている。 ・また外出し、外食を一緒にとったり、墓参りやお盆お彼岸などの行事には参加していただいている。居室で家族や親しい方と食事などもとったりしていただいている</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>・お友達との電話や手紙、訪問などの機会があるときは積極的の支援している。また近隣の行事の際には出かけて出会う機会を設けている（町内のカラオケ大会、餅つき、なじみの商店）</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・聞こえの困難になっている利用者が増えてきているので職員がパイプ役になって交流がスムーズに行えるよう努めている。 ・外出の際の利用者の組み合わせも考慮している		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・病院への入院や退所となった場合病院や法人内の特養などに行かれた時には様子を窺いに行くことがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・利用者とのコミュニケーションの中で本人の考え等聞き希望になるべく沿えるよう努めているがさらに個別にきめ細かく支援の仕方を工夫するつもりである。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・サービス開始前にご家族からアンケートを書いてもらったり訪問調査の折に聞き取り調査をして把握に努めている。また以前のケアマネからも情報を了解のうえ頂いている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝の申し送りの際に状態の把握をしたうえで対応の仕方を共有しているが、心身の変化の著しい方への対応ではもれることも有り、工夫を考えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>・ケアカンファレンスの折にチームで課題を分析したものとご家族からの情報や意見、本人の意向を踏まえて（意向が伝えられない利用者には予測して）プランを立てている</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>・日誌には気づきや情報を記載しているが、さらに個別のノートを作り日々の眩きを記録したり、変化を記録することでよりきめ細かなサービスへつなげたい。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>・送迎付きのマッサージ治療院を利用できた方もいる</p> <p>・以前利用していた小規模多機能施設と協力して交流を持った利用者もいる。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>・近所付き合いを大切にし、お庭を散策させてもらったり、栗拾いなどをさせてもらったり、ボランティアで来ていただいたりなどし、豊かな生活ができるように支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を楽しみながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・以前から通っている病院や医院に継続してかかっていたにしている。その際には様子をご家族に伝えて正しい情報を主治医に伝えられるように支援している。又報告も記録している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>			
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>・入院時や途中の経過などをご家族や病院関係者と連絡を取り合い場合によっては話し合いを設けている。リハビリなどはその現場に行き現状を把握し希望を伝えている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>・医療依存度の高くなった利用者に対して家族や医師との話し合いによりグループホームのできることできないことへの説明をし、その都度施設で出来る事を行なった。又点滴などを近くの医院にお願いした。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>・急変時の対応に関してはまだ日の浅い職員もいることから今後の課題である。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>・避難訓練は定期的に行い、夜間想定での避難訓練も実施した。地域の防災担当の役員と打ち合わせを行い実際の訓練に立ち会っていただいた。又近隣の方への協力もとりつけている。消防署からも立会いに参加していただき講評をいただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人格の尊重を常に念頭に置いて対応できるように声をかけているが、時には感情的な声のかけ方になるところがある職員もいるのでその都度注意をしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一対一でコミュニケーションを図っているときにさりげなく希望を聞いている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ゆっくりとした時間の流れを目指しているが、時には職員のペースになるところがある。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・白髪染めをしたいという利用者に対しては、施設で染めたり、美容院に行ったりしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・できるだけ食事の下ごしらえや片づけも利用者と一緒にコミュニケーションを図りながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・日誌に食事摂取量と水分摂取量を記入している。変化のある利用者には食事以外の時にも栄養や水分補給をできるよう支援している。又食事介助が必要な利用者には個別に居室で介助している</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>・食事後は介助が必要な人にはスタッフ間で共有した手順で介助し、自立されている利用者には声をかけている。また随時歯科受診も行っている。認知症の進んだ方への口腔ケアが困難になっているので工夫をしていきたい。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>・一人ひとりの排尿のリズムを把握し声かけ誘導の必要な利用者には誘導して排尿感覚を忘れないよう支援している。夜間歩行の不安な方へはPトイレを設置している。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>・食材や調理の工夫をして水分や繊維を多く取れるよう工夫（圧力鍋の活用やミキサー）をしている。また乳酸菌飲料の定時な提供などもしている。腹部マッサージも必要な方には実行している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>・せかさないように声かけに気をつけてコミュニケーションを図りながら楽しく入浴できるようにしている。拒否の強い方には無理強いをせず、入浴前に十分に信頼関係作り声をかけるよう工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>・様子を観察しながらその方のペースに合わせて声かけしている。安眠できるよう居室の室温にも気をつけている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>・服薬表を掲示して、いつでもみられるように工夫をしている。新しい薬が処方されたらその都度情報を周知してもらえるよう申し送りし、間違いの無いようにしているが、さらに工夫していきたい</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>・一人ひとりの得意とすることに合わせて手伝ってもらえる内容を考えてから声をかけるなど工夫している。選挙の投票に行きたい人には立会いの方に協力していただき支援した。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>・なかなか全員の希望に応えることが出来ていないがなるべく個別での外出の機会を作れるように努めている。ご家族の支援で歌舞伎鑑賞や温泉宿泊旅行が出来た利用者もある。</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>・以前は数名の方が自分の財布を持って外出し楽しんでいただいたが、最近では能力的に困難になってきた。個々の能力に沿ってその都度お金のやり取りをしていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届けものがあったり、手紙などが届いたときには電話を使って御礼をしていただいたりしている。またスタッフと外出したときには施設へ簡単な連絡を電話でもらったりしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節感を味わっていただけるよう室内の壁飾りや庭で咲いている花を使って生け花をしたり、食事の時には音楽をかけ工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・基本的には個々人の思うように暮らしていただいている。ときには他の利用者の居室などに訪れたり、隣のユニットへの行き来をしたりと工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居の際に使い慣れたものや家族の写真、こだわりのある物品などを持ち込んでいただいている。また買い物などで気に入ったものを購入していただくなど工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・掃除用の物品が利用者にも使えるようにおいてある。また食器の置き場所など利用者がしまうことが出来るように配置している。食堂や居間が広いので安全に配慮した上食器を下げてもらっている。		